（別紙様式１）　**令和7年度　学校評価（自己評価）及び学校関係者評価報告**　　学校名〔　京丹後市立しんざん小学校　〕

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
【峰山学園　教育目標】 「ふるさとを愛し、多様な人とつながりながら学び、探究し続ける子どもの育成」 【峰山学園　めざす生徒像】 １ 主体的に学び続ける子ども ２ 人を思いやり仲間と共に高め合える子ども ３ 粘り強く挑戦し続ける子ども	○目指したい児童の姿を共有し、ねらいをもとに取組内容を考え、教育活動につなげることができている。 ○保護者アンケートや学びのパスポートの質問紙の結果より、児童の前向きさや意欲が向上していると言える。 △個別の支援が必要な児童が各学級に在籍しており、支援員も含めた組織的な対応を共有しながら推進する必要がる。 △子ども達の心理的安全性を高めるために、安定した学級経営を目指して取り組み、学力の向上と授業改善を目指す必要がある。	**「安心感が醸成される」学校を目指して** １　主体性や粘り強さの土台となる安心感を醸成する。 ２　探究的な学びを視点とした研究推進を行い、ＩＣＴ活用を含めた授業改善及び指導観の転換を目指す。 ３　明確な目標をもち、具体的な評価と改善を意識し、組織や過程を活かした教育活動の推進を目指す。 ４　尊重・協働・サポートし合う雰囲気を醸成する。

評価項目		重　点　目　標	具　体　的　方　策	成果と課題（自己評価）	学校関係者評価
学校教育指導の重点、保幼小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として	教育課程 学習指導	１　児童が自ら課題を見つけたり探究したりする授業づくり ２　基礎基本の定着と家庭学習の充実	（1）重点教科を設定しない、付けたい力を視点に当てた研究グループ編成等、各担任が授業実践に挑戦する意欲を高め、学び合う雰囲気を醸成する。 （2）全国学力学習状況調査・学びのパスポート等の学力分析を行うとともに、タブレット更新に合わせ、活用方法の研修を設定し、下半期の授業づくりに活かす。 （1）タブレット端末や学習アプリ（ドリル・テストパーク等）を活かした家庭学習・学習評価の実践と研修を積み重ねる。	○教職員が「自己選択・自己決定」「児童の興味関心」等の４つのテーマを設定した授業づくりを行い、各担任・児童ともに意欲的に授業に臨むことができた。 ○各種学力テストの結果から、学習内容の未定着の児童の割合が減少しており、授業改善の成果が少しずつ見られ始めている。 △全国・府等の正答率と比較すると、学習内容の定着は大きな課題がある。授業改善やタブレットの活用、家庭学習のあり方も含め、具体的な取組が必要である。	・クロームブック活用の浸透が見られた。その反面、使い方やルールの児童や保護者への理解を深めていく必要がある。 ・書くことへの意識の向上を継続する必要がある。
	生徒指導	１　安心できる学級経営の充実 ２　児童相互のつながりや児童の主体性・安心感を醸成させる。 ３　「いじめ」「不登校」等の未然防止に向けた日常的な指導及び相談活動の充実	（1）生徒指導の４視点（自己存在感・共感的人間関係・自己決定の場・安心安全な風土）を活かした学級経営を推進する。 （2）肯定的評価や価値付けの積み上げ、失敗からの学びに視点を当てて、判断力の向上や認め合える集団づくりを目指す。 （1）運動会をはじめ、行事や取組内容において、児童主体となる内容や枠組を設定し、自分事に捉えさせるとともに、主体性を育む。 （2）思考・選択する場面や「つながり」を大切にした活動を、特別活動の取組等で設定し、安心感を醸成させる。 （1）日常的に児童の状況を把握し、個別・集団における丁寧なアセスメントを行い、組織体制の中で見立てと方針を共有・確認し取り組む。 （2）ＳＣやＳＳＷの見立て等、専門的な観点を踏まえた具体的な取組を推進する。 （3）保護者面談を積み上げ、方針や状況、見通しを共有し、家庭・学校双方で具体程な取組を積み上げる。	○保護者アンケートから、「安心して学校生活を送っている」の項目おいて、96%の肯定的回答が得られ、学校方針である「安心感の醸成」は浸透しつつある。 ○学校全体として、児童会活動や学校行事等を通して、児童の「自己選択・自己決定・つながり」を大切にした内容づくりを行うことで、児童相互の応援や優しい接し方を行う姿が多く見られた。 △児童相互の関係の脆弱性や判断力の乏しさから、問題事象の発生につながることが多く、学級経営を通して、児童相互の「つながり」を大切な視点として取り組む必要がある。 △個やその集団に応じた見立てを十分に行うことができなかったので、担当を明確にした組織的な取組を推進する。	・行事の様子から、児童主体であったり、交流する場面だったりと、先生方が前に出ることがなく、活動できていた。 ・今後も引き続き保護者との連携・協力を大切にしていただきたい。

	健康・安全	1　規則正しい生活・安全な生活を送ることができる児童の育成	（1）ＳＮＳ講習会や保健指導を年間に位置付け、メディアコントロールの力を身に付けさせ、基本的な生活習慣の確立を目指す。 （2）登下校の安全に対して、安全ボランティアの方々との連携や定期的な通学班会等によって、実態把握を行い指導につなげる。 （3）日常的な事象を取り上げ、タイムリーに指導を積み重ねることで、安全に生活する上での判断力を高める。	○４・５年生のＳＮＳ講演会、また、動画や視聴資料等を活用した学級指導を通して、危険性を理解させるとともに、児童の判断力向上のよい機会となった。 △登下校も含め日常生活において、安全への意識が低く、不注意な行動が見られる。今後も外部との連携を密にして、実態把握と指導を継続する必要がある。	・多くの場所で立ち番をしていただき、見守っていただいているのがありがたい。 ・立ち番がなく危険な箇所があるので、対応できるとよい。
	特別支援教育	1　支援を必要とする児童への支援体制の整備	（1）配慮を必要とする児童の状況やその支援について、継続的に共有し理解を深める。 （2）通常学級に在籍する支援を要する児童について、通級指導教室開設に向けて計画的に進めるとともに、特別支援教育充実指導員・ＳＳ等と連携した個に応じた支援を行う。 （3）ＳＣ、ＳＳＷ、巡回相談との外部と連携し、その専門的な見立てをもとにアセスメントを行い、適切で有効な支援の仕方を探る。 （4）丁寧で継続的な面談を通して、保護者と支援の方向性について確認し合い、適切な就学相談を行う。	○スクールサポーターや特別支援教育コーディネーター等の定例会を行い、状況を継続的に把握し、支援内容を交流・共有することで、特性の緩和につながった。 ○継続的な児童への支援や保護者との連携が、適切な就学につながり、児童の変容を通して、保護者から肯定的な理解が広がりつつある。 △来年度、多くの通常学級に在籍する配慮を要する児童において、通級指導担当を中心に見立てを行い、具体的・組織的な支援を行う。	・多様なお子さんがおられるので、ご苦労だと思うが、引き続き、丁寧に対応していただきたい。
	特色ある学校づくり	1　家庭・地域にひらかれ、家庭や地域と協働する学校づくりの推進	（1）授業参観や行事への参加、小まめな家庭訪問や電話連絡等、保護者との連携を密にする。 （2）学校・学級だよりやホームページを活用し、学校や児童の様子等、積極的に情報発信し理解を得る。 （3）学校評価や保護者アンケートを計画的に実施するとともに、行事や取組の感想を活用し、学校改善に活かす。 （4）地域の人材や資源（高等学校、企業、学校支援ボランティア等）を活用した教科学習等に取り組み、多様な方との学びを広げる。	○家庭訪問を継続的に実施することで、事象解決につながったり、保護者や児童とのつながりを深めたりと、学級経営の基盤づくりに活かすことができた。 ○学校ホームページを 70 回（２月末現在）更新したり、学校だよりでも学校行事特別号を連続発行したりと、大切にしたい目標の理解を深めることができた。 △保護者アンケートの結果から、さらなる小まめな家庭連絡や家庭訪問を積み重ね、信頼関係の構築を目指す必要がある。	・配布されているたよりを中心に、毎回読ませていただいている。画像等で様子は分かりやすいが、行事や取組の説明がもっと掲載されていると、さらによく伝わると思う。
次年度に向けた改善の方向性		1　学園の目指す姿の土台である「安心感の醸成」を経営方針として継続させる。そのために、「安心・安定した学級経営」「主体的な学びや活動」について、校内研修等、具体的に取り組み、一歩ずつの改善を目指す。 2　「不登校の解消・未然防止」「特別支援教育」に係る個に応じた支援について、通級指導担当を含め、担当分掌主任等によるアセスメント（見立て）、具体的な取組や支援、振り返り等のサイクルを組織的、協働的に行い、特性等の緩和を目指す。 3　「児童主体」の授業改善を中心に、家庭学習や学習評価のあり方、学習アプリの効果的な活用等、研究・研修を推進し、児童の学習意欲を高めるとともに、学習内容の理解を図る。			・安心して登校できる学校を目指してほしい。 ・引き続き、児童が主役になる取組を大切にしてほしい。